

普通科 人文社会科学138班

手話の法則

10 人や国の不平等をなくそう



班員 久保田季花 西ヶ野杏奈
新名健大 山本瑠星

指導者 五反智大先生
コーチ 水永正憲様

研究の動機

国語や英語などの言語の授業が当たり前にある中で手話の授業がないことに疑問を持ったから。

研究の目的

少しでも色々な人に手話に興味をもってもらうこと。

先行研究

<https://www.city.hita.oita.jp/material/files/group/18/27-4.pdf>

分かっていること

- ・手話は世界共通ではない
- ・フランスのド・レペー神父が最初に パリで手話による教育を始めた。
- ・古河太四郎氏が日本で手話を確立

分かっていないこと

- ・手話の成り立ち
- ・なぜ手話は作られたのか

研究方法

- ①既存の研究や文献を調査して、手話の法則に関する知識を獲得する。
- ②実際に専門知識のある人に話を聞く。
- ③収集したデータを分析し手話のパターンを特定する。
- ④③を下に手話の模擬授業を行い手話の印象についてのアンケートを取る。



必要な道具

- ・パソコン・手話の本



参考文献

長南浩人:聴覚障害者の日本語指導における手話の使用に関する実験的研究(2001)

仮説

手話に対してマイナスな印象を持っている人が多いと考える。手話を身近に感じる事ができれば、プラスな印象に変えることができるのではないか。

結果

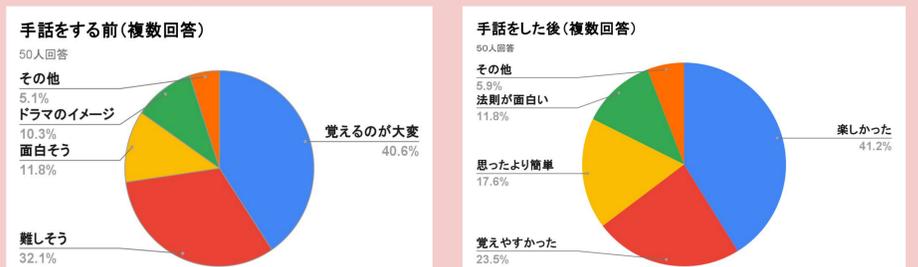
手話をやる上での大切なことがわかった(目線、表情、強弱、文末の指差しなど)。

「人」を表す手話は他の言葉を表す手話にも使われている(泳ぐ、乗る、歩く、ダイビングなど)。

授業内容

- ①挨拶
- ②名前
- ③誕生日
- ④普段使える言葉

アンケート



他にも、由来が面白い・意味と動きが繋がっていて覚えやすい・手話を知らなくてもなんとなく分かった、などの意見があった。この結果から研究の目的を果たせたと思う。

今後について

- ・SNSを使い、全世界に広める
- ・保育園などに行き、手話教室をする

(模擬授業の様子→)

